

船橋納税貯蓄組合連合会 会長賞

未来へのバトン

船橋市立七林中学校

第三学年

有村

太希

僕には3つ上の兄がいる。兄は意地悪な時があるが、僕が何かしらで悩んでいると、いつも相談に乗ってくれる。そんな、兄の誕生日に僕は兄にプレゼントをあげようと思ひ、お店に行ったときだった。目当ての物を見つけ、支払いをしようと思ひ、値段を見ると、僕の想像を上回る値段に僕は戸惑った。僕は、消費税増税のことを忘れていたのだ。結局、プレゼントを買うことはできなかった。数日後、学校の友達にこのことを話した。すると友達は「それは災難だったね、僕も少し前まで、税金ってなんであるんだろうって思ってたよ。けど、今はその理由がわかってきたと思う。」と言った。僕はそれを聞いて「なんで？」と尋ねた。友達は少し笑いながら話し始めた。「僕は、昔お腹の病気になったんだよ。ある日の朝、僕が朝食を食べている時、

いきなり激しい腹痛に襲われた。お母さんと病院へ行き、検査をした。結果は、急性虫垂炎というお腹の病気だったんだって。先生の判断で、僕はそのまま緊急手術することになりその後、一週間入院することになった。初めての手術と入院、とても怖かった。でも、入院期間中は、看護師さんに優しくしてもらった。そのおかげで、順調に回復する事が出来た。退院する時に、迎えに来た親との会話の中で、支払った病院代が少額のものだったことを聞き、僕は耳を疑った。一週間、旅行でホテルを使っただってそんな金額では到底足りない。それに加えて手術まで、そんなはずがないと思ひ、請求書を見ると、会計で60万円もかかる入院だったらしい。それがなんで少額になったのか、それは『子ども医療費助成制度』のおかげなんだって。初めて聞く言葉だったからネットで調べてみると、高額

な医療費を保険と助成金で分けることによって、保険が破綻してしまうのを防ぎ、安心して子育てができるように国や地域が支えてくれること、そしてこの制度には税金が使われていることがわかったんだ。そのことを知ると、なんで税金があるのか、その疑問がなくなった。もしも、税金がなかったら、今こうやって君と話していかないかもしれない。僕は心を打たれた。税金のおかげで、友達はここにいる。そう考えると、税金は国民の人たちを助けることができると思ひ、僕は一人では生きてはいけない、いつか病気になったり、事故が起きるかわからない、そうになったら、たくさんの人に迷惑をかけるかもしれない。未来の自分のために税金という保険をかける義務がある。誰かが困った時、その人が「助けて」と言えるようにするために、僕たちは税金を納めるのだ。

次は僕たちが未来の人たちを支える番。僕が幸せに暮らせるように、僕も、誰かの幸せの暮らしを作りたい。僕たちがもらった幸せを、未来の人たちへつなぐ、その思いと行動は、きっと未来をよりよくするだろう。